

み

ん

な

文

芸

# 中田國太郎選

投稿数18首

# 引間豊作選

投稿数21句

ほととぎす苦吟何時しか忘れをり

下日野沢 高山 ユウ

(評) 声を聞いて、いと一句ものにしようと思ったのに、つい声に引き込まれて出来ず仕舞いのこと。この鳥は鶯の巣に托卵して自分で子育てをしないというが、夏になると頃には何處ともなく去ってしまうが、子供は連れて行くのだろうか。話題の多い鳥、昔から句にも詠まれている。豊徳時代、信長は鳴かねば殺してしまうと言い、秀吉はなんでかんで鳴かせると言うのに対し、家康は鳴く迄待つと言うが、面白いことに鳴き止んで飛び立つ直前に「もう一声鳴け!」と言ふと本当に鳴いてくれるというから不思議な鳥だ。

青田吹く風ほど青き風は無し  
下田野 中田 久恵

素顔にも紅ひく日あり柚子の花  
下日野沢 引間富美子

ほどとぎす曾孫の顔も見られるか  
下日野沢 金沢

小淀なる水面に映えし山の藤  
三沢 新井 民子

ここ幾日とまどひゐたる走り梅雨  
三沢 沢野 恒平

万縁を独り占めして耕耘す  
下田野 皆野 新井 茂

城垣の石に家紋や都会梅雨  
上日野沢 四方田利男

薔薇が咲きデッサン会の筆走る  
下田野 藤原 道男

ハンカチを咲かす珍樹へ風薰る  
三沢 真下 杏子

ほろ酔いにじいつと黙つて臚月  
金沢 青木富佐子

床屋行き事たる髪や夏が来る  
三沢 鈴木 キク

## 晩酌を楽しく飲めば両の手に浮き出る血管大河の如く

皆野 金子善次郎

(評) 「酒は百葉の長」と言われるよう、適度に飲めば、どんな薬にもまさる最良の薬である。特に現代のように多様なストレスがたまる時は、晩酌を楽しむのは庶民の賢明な生き方だろう。作者は、農に生きてきた証として結句で「天河の如く」太くて脈々と流れる血管を見つめる。ほろ酔いながら粒粒辛苦の長い道程を回想するひとときが至福であると共感する。酒と旅の歌人若山牧水にこんな歌がある。「かんがへて飲みはじめた一合の二合の酒の夏のゆふぐれ」四方田作、わが児を探す母の声が胸を刺す。新井作日本人の深い人間性に心を打たれる。笠原作はつとる。

上日野沢 四方田利男

**み  
ひろ  
美尋ちゃん**



駒形区

小林 貴広さん  
教子さん

みーちゃん

お誕生日おめでとう♪  
優しい女の子に育ってね！



下大浜区

権田 和俊さん  
雅子さん

清んだ心の優しい子

になってネ♡



原区

山科くるみさん  
元気があれば、それで良し!!

**こむぎちゃん**

シルバーの親睦旅行成田山みんな笑顔で五月晴なり  
五月晴今日は生家の上棟日カチカチコツコツ初夏を彩る  
高原の甘い空氣をすいながら花のじゅうたん夢の一刻  
卯の花がそよ風にのり手招きす心和みて介護に走る  
母の日に十万石饅頭子ら送る花に添え書長生きしてね  
シルバーの親睦旅行成田山みんな笑顔で五月晴なり

三沢 横田 龍雲  
下日野沢 皆野 新井 愛子  
下田野 安井 杏子  
三沢 鈴木 千代 民子  
横田 千代 光代  
三沢 鈴木 キク  
三沢 横田 ハルジ